



復刻されたセビリアの聖母
「聖家族」には「Arie1596」、「セビリアの聖母」には、「in sem lapo 1597」と彫りこまれており、有家で彫られたことがわかります。

絵画と印刷
使節が持ち帰った聖画は、画学生らの手本として、水彩や油彩、銅版画などの勉強に利用されました。後年、宣教師フロイスは「ようやく各地の聖堂を立派な絵で飾ること

ができる」とイエズス会にその感動を伝えていきます。また、持ち込まれた印刷機で、多くの銅版画が刷られました。キリシタン弾圧でほとんどが消失してしまいましたが、奇跡的に「セビリアの聖

母」と「聖家族」がマニラで発見されました。いずれもセミナリヨが有家にあったときに制作されたもので、これらが、「有家版」と呼ばれるゆえんです。

このうち、セビリアの聖母は、有家セミナリヨ開設40年事業として、1996年、故渡辺千尋氏（2009年没）の手によって復刻されました。復刻された版画は、現在ありえコレジヨホールに保管されており、希望すれば誰でも観ることができま

す。



藤原市長もローマ法王に謁見！
1998年当時の有家庭長であった藤原市長が、故渡辺千尋氏らと共に、ローマ法王ヨハネ・パウロ2世に謁見。「セビリアの聖母」の復刻版を献上しました。

なお、市ではセミナリヨ版画展を毎年開催し、銅版画の歴史の顕彰、文化の高揚に努めています。

音楽と祈り

セミナリヨの日課表によると、毎日音楽の時間がある、聖歌を歌ったり、楽器の練習をしていました。

4少年も例外でなく、帰国した4人は、太閤秀吉に謁見

した際、アルバ（ハープ）、クラヴォ（鍵盤楽器）、ラウテ（リュート）、レベカ（ヴィオール）などの楽器を演奏。秀吉のアンコールで3度も演奏したといわれています。

その後、北有馬町の有志が、当時の聖歌を復刻。現在では、小・中学生の聖歌隊「コルス・アンジェリクス」によって、グレゴリオ聖歌などが歌い継がれています。



旅の名は 有馬セミナリヨから世界へ

天正遣欧少年使節とは？

九州のキリシタン大名ら（有馬晴信・大友宗麟・大村純忠）は、自分の名代（代理）として、4人の少年（伊東マンシヨ、千々石ミゲル、原マルチノ、中浦ジュリアン）にローマに行くよう命じました。この出来事を天正遣欧少年使節といいます。

村木嵐さんの語る4人

有馬のセミナリヨで学んだ4人の少年は、口之津港を出発し、1582年2月20日、長崎の港から巡察師ヴァリニャーノと共に出航。ローマ教皇グレゴリウス13世と会ったあと、無事に日本に帰りました。洋々と船出した4人でしたが、8年後帰国した日本は、

「東方の4人の貴公子」たちとして、1585年中に書かれた本などは48種類、1593年には77種類にも及び、イタリヤ、ドイツなどの各国に、日本の存在を知らせました。また、日本に日本初の活版印刷機と印刷技術を持ち帰りました。



正使・伊東マンシヨ



正使・千々石ミゲル



副使・中浦ジュリアン



副使・原マルチノ

少年像はいずれも〈ウルバーノ・モンテ『年代記』〉より
像左は出身地（現在の自治体名で記載）



1595年刊行オルテリウス編のテイシェイラ作成の「日本図」 日本二十六聖人記念館蔵

使節が与えた影響

悲運の彼らでしたが、その功績は著しいものがありました。

「平成遣欧少年使節では、ローマ法王にも謁見するのだから。中学生と言えば、感性豊かなとき。こうした時期に海外に触れることができることは、とても素晴らしいことです。4人の少年たちにとって、航海が友情を育み、ローマでの見聞が一生を左右したように、後で振り返ったときに、『かけがえのない時間だった』と言える思い出になるといいですね」



村木嵐（むらきらん）
司馬遼太郎家の家事手伝いを経て、司馬夫人の福田みどりさんの個人秘書を務める傍ら執筆活動を行う。
2010年同作品で、第17回松本清張賞受賞
現在松平信綱を主人公にした小説を執筆中なのだから、発表が今から楽しみです。



7月21日、村木嵐さんが、口之津史談会の招きで講話会を行いました。「口之津にずっと来たかった」という村木さん。作品の執筆秘話に、来場者は、熱心に耳を傾けていました。

松本清張賞作家 村木嵐さんからエール

天正遣欧少年使節の4少年の生涯を描いた傑作「マルガリータ」。第17回松本清張賞も受賞したこの作品の作者、村木嵐さんからお話をお聞きしました。



マルガリータ
著：村木嵐
出版社：文藝春秋
戦国末、ローマから日本に帰国した天正遣欧少年使節を待っていたのは「禁教」だった。4人の中で、ただ一人信仰を捨てた千々石ミゲルは、何のために生きようとしたのか？ミゲルの苦悩の生涯を、妻「珠」の目から描く。